Def Doc # 1705

極東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國其他

對

荒木貞夫其他

宣誓供述書

供述者　黑田重德

自分儀我國ニ行ハルル方式ニ從ヒ先ヅ別紙ノ通リ宣誓ヲ爲シタル上次ノ如ク供述致シマス

Def Doc # 1705

一、私ハ一八八七年十月二十五日本籍地福岡縣大牟田市ニ生レ現在巢鴨監獄ニ居リマス

二、私ノ經歷ハ大要左ノ通リデアリマス

一九三七年七月　第二十六師團歩兵團長（陸軍少將）

一九三八年十一月　滿洲國牡丹江ノ第四獨立守備隊司令官

一九三九年八月　第二十六師團長（中將）

一九四一年八月　教育總監部本部長

以後一九四四年十一月マデ、シンガポール軍參謀長、マニラ軍司令官ヲ經テ一九四四年十二月豫備役編入トナル

三、私ハ中豪軍岡部直三郎中將隷下ノ第二十六師團長トシテ一九四〇年一月下旬傳作儀ノ軍ヲ打ツタメニ騎兵集團ト共ニ五原地方ニ作戰シマシタ。我軍ハ自動車デ包頭カラ進撃シ敵ヲ撃破シ戰鬪ハ十日間位デ終リ目分ノ軍ハ占領後直チニ撤退シ五原ノ町ハ其後岡部直三郎中將指揮ノ軍ニ於テ守備ヲシマシタ

四、私ハ常ニ部下ニ對シ原住民ヲ虐待暴行ナドスルコトノナイ樣嚴重ニ

滅メテ居リ此趣旨ハ聯隊長以下ニ充分徹底シテ居リマシタ
却ッテ文那ノ住民ニハ丁寧ニセヨト訓令シ之ヲヨク守ッテ居リマシタ。軍紀風紀ノ正ナコトニ於テ第二十六師團ハ北支那方面デ第一ノ模範的師團ト言ハレテ居リマシタ

五、一九四〇年二月二日及三日ニ第二十六師團ニ屬スル第十三聯隊ノ兵ガ暴行虐殺ヲ行ッタトイフ様ナ事實ハ絶對ニナカッタコトヲ確言致シマス。即チ此五原ノ戰ハ五原ノ平原デ行ハレ町ニ對シ攻撃ハ加ヘマセンデシタガ住民ハ全部奥地ニ避難シ一人モ居リマセンデシタ從ッテ右ノ様ナ事件ハ起リ得マセンデシタ、私ノ部下デアリ特ニ厳格ナ歩兵團長ノ安達少將ヤ聯隊長石黒大佐ノ部下ガ其様ナ不法行爲ヲスル筈ハアリマセン只事實其様ナ行爲ハシマセンデシタ。若シ不法行爲ガアレバ全部自分ノ處ニ報告ガアル筈デアリ地方トノ連絡ハヨク取レテ居リマスノデ何處カラデモ報告ハ全部私ガ受取ッテ必ズヨク讀ミ調査シテ居リマシタガ右ノ様ナ暴行虐殺ナドトイフコトハ全然報告サレマセンデシタ苟シ此様ナ事實ガアレバ軍法會議デ必ズ裁判サレ厳重ニ處分サレル筈デアリマスガ軍法會議ニ於テ斯カル事件ガ裁判サレタコ

Def Doc No. 1705

トモアリマセン。斯カル事實ハ全ク無カリシコトヲ斷言致シマス。

右五原地方ニ於ケル事件トシテハ却ツテ日本軍ガ虐殺サレタ事實ガアリマシタ即チ五原作戰後五原ノ町ヲ守備シテ居タ岡部直三郎兵團ノ多數單人官吏ガ一九四〇年三月終頃雪融期ニ傳作儀軍ニ侵入サレ虐殺サレテシマヒマシタ。

其後ナ次第デスカラ日本軍隊ニ私ノ部隊ガ支那人民ニ對シテ暴行虐殺ナドシタコトハ絶對ニアリマセン。

Def Doc No. 1705

昭和二十二年（一九四七年）二月十五日於極東国際軍事裁判所

供述者　黒田重徳

右ハ當立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名拇印シタルコトヲ證明シマス

同日　於同所

立會人　今泉太郎

Def Doc #1705

宣誓書

良心ニ從ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ秘匿セズ又何事ヲモ附加セザルコトヲ誓フ

（署名）
（捺印）

黑　田　重　德